児童生徒との面接

児童生徒理解は、その児童生徒に対して、「みてみる」「きいてみる」「やらせてみる」ことで、①その児童生徒「についてわかる」（素材・情報をわかる）、②その児童生徒「をわかる」（素材・情報を再構成して全体像や内面をわかる）ことと言えます。こうした観点から児童生徒理解を考えてみます。

▲▽　▲▽

Ⅰ　児童生徒「をわかる」とは

児童生徒「をわかる」とは、その児童生徒に関するさまざまな素材や情報を得て（児童生徒「についてわかる」）、それらの意味や関係性を見つけたり、本人の受け止め方を考えたりしながら、

①児童生徒の独自の考え方や感じ方、物事の見方は何か
②友人や親、教師など、重要な他者とどんな関係になっているのか
③児童生徒をとりまく環境状況や出来事を本人はどう受け止めているのか
④これらが、いつから生じて、どのように変化し、これからどのような見通しが展望できるのか

などを理解することと言える。

Ⅱ　児童生徒「をわかる」ために

児童生徒「についてわかる」から児童生徒「をわかる」ためには、

- **「見てみる」（観察する）**
- **「やらせてみる」（課題や検査をさせる）**
- **「聴いてみる」（相談面接をする）**

ことが必要である。ここでは、「**聴いてみる**」ための要点をまとめた。

①他の先生や保護者、他の児童生徒に、その児童生徒についてインタビューできること。そのためには、日頃コミュニケーション（＊）をよくとっておくことが求められる。
②その児童生徒本人に聴いてみるときも、日頃のコミュニケーション（かかわりの質や量）が基盤になる。
③その児童生徒の言うことを正確に把握すること。本人はそう言いながらどんな気持ちでいるのか、非言語的なサインも参考にしながらわかろうとする。
④わかったといっても、それはこちら側のことでしかない。その児童生徒に「私はこんなふうに理解したが、それいいのかどうか」を尋ねる。こちらがどのようにわかったのかを伝えて、初めて相互にわかり合うことになる。

（＊）キーワード解説「コミュニケーションのとり方」参照

Ⅲ　相談面接をする際の留意点

なぜ、何のために行う面接なのかを意識する

■子どもの言うことをしっかり聴いて理解しよう
▲子どもの苦戦状況をちゃんとわかろう
●子どもに丁寧に説明して非に気づかせよう
◆子どもが受け入れられるように、アドバイスしよう
など

それが、今できているのかを意識する

■子どもはしっかり聴いてもらったと思っているか
▲子どもは苦しさがわかってもらえたと思っているか
●子どもは非を責められたと思っていないか
◆子どもは指示を押しつけられたと思っていないか
など

教師は、この面接で何をしたいのか、それができているのか、子どもにとっては、結局何をされたことになっているのかを意識しよう！

Ⅳ　相談面接の方法

面接の基本的な技法は、「うなずき」や「相づち」を打ちながら聴き、わかったこと（そのキーワード）を「繰り返す」こと、話された事柄や感情を（表明されない感情も含めて）「つまりあなたは～なので～と感じているのね」と伝えること、さらに、児童生徒の受け止め方や感じ方に近づくために、具体的にもう少し詳しく教えて欲しいと「質問」をすること

アセスメント（問題状況・苦戦・資源の把握）

傾　聴　技　法
わかろうとする

→

応　答　技　法
わかったことを伝える

→

質　問　技　法
さらにわかろうとする

⇒

指導･援助

相手の枠で聴く

先入観や思いこみ、決めつけ、偏見をもって聴かない

・うなずき、あいづち
・キーワードで返す（繰り返し）
・応答パターンで返す

もっと相手の話をよく理解するための質問

「そのことについて、もう少し話を聞かせて？」
「例えばどういうこと？」「具体的に言えば？」
「別な言葉で言えば？」
「もう少しわかりやすく言えば？」
「そのときはどんな気持？」「今はどんな気持ち？」

問題の解決に向かうための質問

「どうなればいい？」
「今まででうまくいったことは？」
「どんなことならできそう？」
「どうして欲しい？」
「どうしてできたの？」

応答パターン

「（　　）という状況なので（　　）なんですね」
「（　　）ができないので（　　）なんですね。
「　だから（　　）したいと思うんですね」
「つまり、あなたは（　　）なので、（　　）と感じているんですね」

という形で返す

応答技法は、相手の経験したこと、感じていること、望んでいることなどを、できるだけ的確に捉えること。そしてそれを相手に伝え返して確認すること

□「傾聴」の効果
・自分の話をじっくりと聞いてもらえることで、心が落ち着き、安心する。
・相手の人と近づいた感じがする。
・相手にうなずいてもらえるとうれしくなる。
・大切にされていると感じる。
・自分は自分でいいんだと肯定(自己肯定感）するようになる。信頼感をもつ。
・自分が考えていることに気づく。整理することができる。
・自分の考えが明確になり、行動に結びつきやすくなる。

▲▽　▲▽

【参考文献】

大野精一『学校教育相談　理論化の試み』，ほんの森出版，1997年

國分康孝『カウンセリングの技法』，誠信書房，1979

福島脩美『カウンセリング演習』，金子書房，1997